

全国統一要求（抜粋）

1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

10月～11月秋の組合員拡大月間 仕事と生活を守る運動を広げよう

組織拡大

低単価・労働条件の改善へ 共に闘う仲間を増やそう

全ダンプ

全国ダンプ部会は、10月～11月秋の組合員拡大月間に取り組んでいます。国は、5年間連続でダンプや建設労働者の待遇改善措置として積算単価の引き上げを実施しており、低単価改善の条件は整っています。しかし、依然として単価や賃金は大幅に改善されていません。結局は、私たちが運

動をしなければ、元請・下請の各建設会社の利益となってしまう。これまで取り組んできた使
用促進・職場闘争などの経済闘争をより一層前進させることが求められています。その為には強く
大きな組合の存在が不可欠です。全国の各支部で
組合員拡大を精力的に取り組みましょう。

10月～11月秋の組合員拡大月間に取り組んでいます。ダンプ労働者を取り巻く情勢は複雑な局面を迎えています。国は5年連続で公共工事の積算単価を引き上げています。ダンプの場合は、燃料やダンプ損料の引き上げを含めると常用単価は約1万円の引き上げとなっています。しか

し、現場で支払われた事例はありません。結局、重層下請構造の下で受注した建設会社のもうけの一部となってしまう。ダンプの低単価を改善させる条件は広がっていますが、実現させる取り組みが弱いのが現状です。今こそ各ダンプ支部が仲間を増やし、力を付けることが求めら

れています。拡大対象者の紹介など、拡大行動への積極的な協力をお願いします。
**楽しいレク企画を開催し
共済の要求で仲間が加入**
神奈川ダンプ支部は10月1日（日）、神奈川県大和市泉の森パーベキュウ場にて、「拡大パーベキュウ」を開催

関東ダンプは、「栃木、神奈川、群馬、千葉、埼玉南部」の各支部が参加して、10月10日（火）、に合同の宣伝行動を実施しました。最初に現在建設中の東京オリンピック水泳競技会場「アクアティクス」に集結しました。同工事では組合の調査により、残土を搬出するダンプの過密運行が明らかになっていきます。50キロ制限の海底トンネル内を80キロ以上で走行するなど、ひとつ間違えば大惨事につながる危険運行が行われていました。元請ゼネコンが安全管理を怠り、下請に低単価を押しつけた結果です。関東ダンプでは発注者である東京都に労働実態調査を要請しています。

その後宣伝隊は東京都中央防波堤に移動しました。同所には東京都の管理する残土処分場があり、多くのダンプが入り出しています。参加者らは処分場から出てくるダンプに組合の宣伝物と労働実態アンケートを配布し、組合への加入を訴えました。



拡大パーベキュウに参加した神奈川ダンプの仲間たち（10月1日大和市内）



中央防波堤の捨て場を出入りするダンプにチラシ配布（10月10日東京）

ここで稲川支部執行委員長から、趣旨説明と組合の活動の紹介をおこないました。
用意した焼肉・焼きそばの他、ピザ・餃子・秋の味覚、サンマ等を美味しいお酒と共にいただきました。会話が弾み、参加した未加入の仲間1名が全労連共済の医療共済の要求で組合に加入しました。

前田道路・NIPPO 大手道路会社へ要請行動



談合問題でダンプの仕事に迷惑を掛けまいと回答（10月12日前田道路本社）

合材委員会 専属ダンプの仕事確保 社会保障の拡充を要求

全国ダンプ部会合材委員会は10月12日（木）、大手道路会社の「前田道路、NIPPO」への本社交渉をおこない、埼玉南部・東海ダンプの仲間が参加しました。

午前中におこなった前田道路への要請行動では、前田道路の南雲製品部長は「日頃、ダンプの皆さんの協力には感謝している。全国の年間出荷数は減少している。その中でも談合の影響で自社出荷が激減したのは大きい。営業力強化も含め、努力している」と話しました。社会保障拡充の

要請については「国交省の未加入対策の動きも把握している。ダンプの仲間の社会保障も検討する時代になっている。人材育成の観点も含め考えていきたい」とし、ダンプ労働者に対しての社会保障補助に理解を示しました。

午後におこなったNIPPO Oへの要請では、山際合材部長・杉浦合材副部長が対応しました。冒頭「談合問題によりダンプのみならずにも少なからず影響を及ぼしたことをお詫びします」と謝罪がありました。動向などの説明の後

営業力強化のための再教育や、JVによる売上強化を展開していくなどの話しがされました。また談合についても「独禁法を改めて学習し、二度と法令違反をしない」と確認されました。社会保障の問題については「合材業界だけではなく、建設業界全体の問題としての働きかけが必要。その中で、NIPPOとしてどのように対応していけるかしっかりと考えたい」と前進した回答を引き出しました。

また、本社がダンプの単価や条件等を把握していないことを確認しました。積み重ね1年間奮闘しました。支店への団結を強化し、組織拡大を前進させよう。埼玉北部



組合への団結を固め、要求闘争と拡大で前進しようと決意（9月3日埼玉県加須市内）

とや、子会社（各工場）の売上や利益などしか把握していないことが明るみになり「子会社だからと把握していないのは大問題。末端で働く労働者の実態も把握すること」を約束し、散会となりました。

9月2日、4日の日程で開かれた建交労第19回定期大会（群馬県内）で、「岩手、福島、栃木、神奈川、沖縄」の各支部が、二〇一六年度の組織拡大で表彰されました。

神奈川と沖縄は年間15%以上の組織純増で「最優秀賞」、岩手は10%以上純増で「優秀賞」、福島は5%以上純増で「準優秀賞」、栃木は年間50名以上の拡大で「特別賞」を受賞しました。各組織は要求闘争や共済などの取り組みを積み重ね1年間奮闘しました。



仕事減少の困難を乗り越え、拡大で奮闘しようと思意統一（9月24日兵庫県内）

支店への団結を強化し 組織拡大を前進させよう

埼玉北部

埼玉ダンプ北部支部は9月3日（日）、「市民プラザかぞ」に於いて、第38回定期大会を55名出席で開催しました。

大会では深谷書記次長の開会挨拶から始まり、野呂委員長より大会議案、平田書記長から会計報告がされました。

今年大会では、ダンプの平均年齢が高いことから、数年後は半減してしまうことが見込まれるために、今後は組合員拡大が最重要課題だということを確認し、10年後には建設業界をダンプの仲間が主役となるように提起しました。

また、組合員が安定した生活を送れるように、就労現場で労働条件の改善がされてきたことへの維持が出来るように、一致団結して運動していくこ

とを確認しました。来年の大会では組合員が少しでも増えて迎えられるように固く誓い、終了しました。

役員体制

委員長 野呂 武留
副委員長 田口 正
書記長 川村 靖夫
書記次長 平田 秋一
書記次長 深谷 久志

困難を乗り越えて
拡大で奮闘しよう

兵庫ダンプ支部は、第15回定期大会を9月24日（日）に開催しました。今村委員長は開会あいさつで、「自公のアベノミクス政治による経済政策で、大手ゼネコンをはじめ財界・大企業の大儲け（10億円以上の資本金を持つ大企業の内部留保は、遂に四〇〇兆円を越す）の一方で、労働者・国民の生活は一向に良くならない状況下での闘いです。」

「安倍自公政権は憲法改悪を企み、戦争する国づくりのために着々と準備を進めています。国民の反発を抑える「共謀罪」も制定しました。日本憲法を基軸として、労働者の賃金、労働条件の改善、人間らしい生活の保障、平和社会の実現に向け兵庫ダンプ支部も共に団結しよう」と討えま

報告と運動方針提案されすべて満場一致で採決されました。いま近畿において急激な仕事減少とそれに伴うダンプ単価の引き下げが支部の財政にも関わる節目の大会となりましたが、支部継続と組合員拡大に繋がるよう奮闘します。

役員体制
執行委員長 今村 信義
副執行委員長 島脇 信次
書記長 飯塚 浩道
書記次長 斉藤 博志
書記長 江田 正